

グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		アメリカ公立高校交換留学		訪問国		アメリカ合衆国	
校内発表会の有無		有	(有の場合)	日にち	7月3日	(対象)	全校
学校名	静岡英和女学院高等学校		氏名	中北恒子		学年	高校3年生

1 目的・応募理由

私は中学生の頃から留学をしたいと強く思っており、高校2年生で両親に留学をしたいと言いましたが、経済的に無理だと言われました。しかし私はどうしても英語圏で英語だけを使って生活し、英語を使って全ての授業をしたいと両親に伝えたらそこまで言うならと言ってようやくさせてもらえることになりました。しかし、私は三人兄弟の長女であるがゆえに学費、教材料、生活費などで大きなお金がかかるため両親の収入は低くはありませんが事情により家計が圧迫し、苦しい状況にありました。なので少しでも両親の負担を取り除きたいという思いで応募しました。

2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

1 学期

I 限 Human Development and Wellness
 2 限 English A (Write & Grammar American literature)
 3 限 Into to 2 Dim Art
 4 限 Algebra 2A
 5 限 Advanced Science Zoology
 6 限 Hospitality & Culinary A
 7 限 U.S. History
 3:00-5:30 Dance practice

2 学期

1 限 Geometry B
 2 限 English B (Write & Grammar American Literature)
 3 限 Advanced 2 Dim Art
 4 限 Algebra 2B
 5 限 Drawing 1
 6 限 Hospitality & Culinary B
 7 限 U.S History B
 3:00-6:00 Softball practice





私は日本の高校2年生の7月後半から10ヵ月間、アメリカの公立高校に交換留学生として留学していました。留学先では、高校3年生に入り、現地の生徒と同じ授業を取り、1学期では、ダンス部2学期ではソフトボール部に所属していました。休日は1週間学校で習ったことの復習をし、来週授業で習う所の予習をしたり、英語検定の勉強をしたりしていました。勉強面以外ではホストファミリーと外出したり、ペットの世話をしたりしてファミリータイムを特に大切にして過ごしていました。その中でコミュニケーションと言うの一番大切なことなので、ホストファミリーにかかわらず、いろいろな人と自主的にコミュニケーションを取るよう意識してがんばりました。

私は初めのホストファミリーの状況や環境が悪く、一度ホストさんを11月に変更しました。変更後のホストファミリーはとても親切で暖かくて家族の一員として迎え入れてくれました。家族構成は若いご夫婦とペットの犬と猫でした。彼らと一緒に過ごす生活は、日本の生活とは異なりとても新鮮でした。夕食は家族毎晩一緒に食べる習慣があり、会話を楽しみました。ホストファミリーには、心から感謝していて彼らの支えがあったからこそ、この留学は成功したのだと思います。

3 感想等

私はアメリカ人の人たちと一緒に学び同じような学校生活を体験すると同時にその中から自然とつく英語力も期待して留学を決めました。この1年は、最大のピンチとも言える大困難がありましたが大きな喜びに満ちた成長の年となりました。渡米してまもなくホストファミリーの状況に問題があり、新しいホストに変更できることになりました。学校生活は勉強も友人関係も部活動も初めは全て大変でしたがとても楽しい充実した日々を過ごすことができました。勉強面では予習、復習などを行うことによって9週間連続オールAを取るなど、勉強に専念することができました。この経験を通じて、私は自分自身を強くし、適応力と自立心を高めることができました。留学は私にとって最高の選択だったと思っています。この私の夢と一緒に叶えてくださったことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。これからも夢へ向かって一步一步頑張って進んでいきたいです。

グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	Hippo Year Long Program		訪問国		カナダ	
校内発表会の有無	☒ ・ 無	(有の場合)	日にち	7月10日	(対象)	☒ 全校 ・ 学年
学校名	静岡英和女学院高等学校	氏名	原田 華		学年	3

1 目的・応募理由

今回この長期留学でカナダに行き、たくさんの英語を聞き、自分の言葉を増やしてきたいと思いました。現地で生きた英語だけでなく、多民族国家であるカナダで他の国の言語も習得してきたいと思っていました。また、将来は国際・言語関係の仕事につきたいと考えており、そのためにもまずは基本である英語の習得を目標に、今回長期留学に申し込みをしました。毎日英語に囲まれた環境で10ヶ月間過ごし、英語で日常会話や少し難しいことも考え、話すことができましたと思います。これからも英語を話し続け、ここで習得してきたことを忘れないように過ごしていきたいと思います。

2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

私のホストファミリーはマザー、ファザー、11歳のシスターと猫と犬でした。マザーは料理が好きで、毎日美味しい料理を作ってくれました。また、私もマザーにたくさんのカナダ料理を教わり、一緒に作りました。ファザーは、サッカーの審判をしていました。仕事の帰りや休みの日は、サッカー場にいました。また、Tim Hortons(コーヒーショップ)が大好きで、1日に何回も買いに行っていました。私も、一緒にTim Hortonsに行きました。シスターはとても明るく、優しい子でした。私が元気がないと声をかけてくれたり、一緒にテレビを見たりして過ごしました。



学校では、英語、美術、食育、数学、生物などを履修しました。日本とは違い、授業が全て選択制なので、前期と後期で授業を選ぶことができます。

部活は、Youth in Philanthropy Club に所属しました。そこでは校内外のボランティア活動を調べて参加したり、ウィニペグの学校同士で繋がり、募金やその他の寄付をします。様々な文化や背景を持つ誰もが一緒に活動できます。私たちにできることは小さなことですが、皆で協力することで大きなものになります。一人ひとりが意識して行動していくことが大切です。日本の学校ではできない経験ができたと思います。

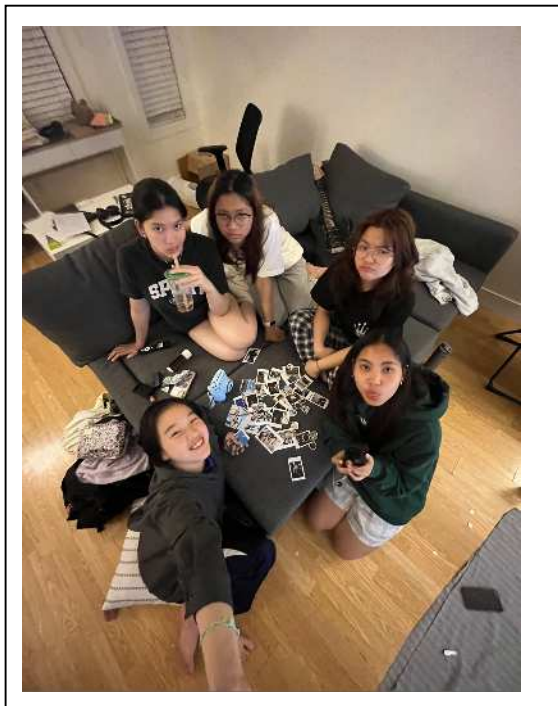


冬休みに、ホストファミリーと一緒にアメリカのオーランドに行きました。アメリカに行くのは初めてだったので、ずっと楽しみにしていました。アメリカの旅行中も、遊園地やレストランなどに連れて行ってもらい、貴重な経験をすることができました。私を受け入れ、一緒に連れて行ってくれたホストファミリーに感謝の気持ちでいっぱいです。

3 感想等

留学をして学べたことは、人々の心の温かさです。カナダの人々は、本当に優しい人が多いと感じました。またカナダは多民族国家であるため、多様性を受け入れる社会性が形成されていると感じました。私が慣れない雪道で滑って転んだ時、通りがかりの男性が手をさしのべてくれ、足を怪我したのを見て絆創膏をくれて、優しく声をかけてくれました。とても感動しました。また、初めてのバスで迷っていると、おばあちゃんが声をかけてくれて、バス停まで案内してくれました。また授業では、何度も自分の国について紹介する機会がありました。私も、日本の食べ物や文化について話しました。どの人も興味を持って話を聞いてくれました。私は、日本にいる家族だけではなく、カナダで出会ったホストファミリー、友達、先生、日本の学校で支えてくれている先生方と友達、その他多くの人に支えられて私が今カナダにいるのだと感じました。

10ヶ月間、たくさんの経験をすることができました。支えてくださった先生方、友達と私の家族にたくさんの感謝と best regard をおくります。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		公益財団法人 AFS 日本協会		訪問国		フランス	
校内発表会の有無		有	(有の場合)	日にち	7 月 22 日	(対象)	バイリンガル 中学・高校全員
学校名	加藤学園暁秀高等学校		氏名	オガタ夏蓮		学年	1

1 目的・応募理由

私が高校 1 年生という時期に、年間交換留学を志した理由は、その国の日常に溶け込むことでしか得られない経験を通し、自分自身の器を大きく広げたいと思ったためである。私はそれまで、まるで「泡」の中にいるような、安定し、守られた家庭・学校環境に身を置いてきたが、自ら敢えてリスクを取り、チャレンジングな環境に身を置くことで、新しい世界観や価値観に出会い、自分自身を大きく成長させたいと思った。

2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

私の住んでいた場所は、大西洋側の南フランスに位置し、スペインの国境沿いにある Saint-jean-de-luz という小さな港町である。ホストファミリーの家は、町の中心街にあり、数分歩けばビーチに行ける距離にある。ホストマザー、ホストシスターとホストブラザーが三人で住んでいたアパートで、私のフランスの留学生活は始まった。ホストマザーは健康志向で、毎日新鮮な野菜をふんだんに使った料理を作ってくれ、私を優しく受け入れてくれた。ホストシスターは明るく、社交的な性格であったため、すぐに友人を作ることができた。10 月まで続いた夏には、家族や友達と毎日のようにビーチに行った。たくさんの飲食店やお店が並ぶローカルな商店街が近所にあり、休日はそこを一人歩きし、カヌレを買うのが日課であった。私が通っていたホストスクールは Saint-Thomas-d' Aquin という私立学校で、当時私は日本では高校 1 年生であったが、ホストシスターと同じ高校 3 年生のクラスに入ることになった。学校までは家から 6 分程の近さなので、徒歩で通学し、昼食は一旦家に戻って食べた。フランスの昼休憩は長く、日によって違うが 1~2 時間程度になる。昼休憩の間は、学校内のカフェテリアで食べたり、学校外に出て近くの公園で食べたり、余裕があればレストランに行くことができる。また、水曜日の午後は授業がなく、6 週間毎に 2 週間のバカンスもあり、定期的に勉強から離れ、自由に羽を伸ばすこともできた。服装も自由で、生徒は皆、思い思いの格好をしていた。このように、自由とゆとりのある教育環境のせいか、生徒の授業態度は日本のものと大きく違っていた。生徒は授業に積極的に参加し、深く思考することを楽しみ、先生が質問すると 4、5 人は必ず手をあげる。疑問があれば、先生にすぐに聞く。自分の間違いを恐れないのだ。そのため、生徒は皆、自信に溢れて堂々としており、とても成熟しているように見えた。フランスの学校での経験を通し、学校の役割や学ぶことの本質についてとても考えさせられた。

街の中心で飾ってあったクリスマスの木



アパートから見える街の景色



3 感想等

私がこの留学を通し、ここに書ききれない程たくさんのことを学んだが、主に二つのことについて記したい。

一つは、人と人とのつながり、普遍的な価値の共有についてである。これについて深く感じたのは、生活によりやく慣れ、仲の良い友人もでき、学校外の活動も始め軌道に乗ってきた1月にホストチェンジを経験したことによる。私を迎えてくれたホストファミリーのアパートの家賃が値上げとなり、急な引越しを余儀なくされ、引越し先のホストマザーの実家に私の部屋を用意できなかったためである。ホストマザーからのその話があった時、既に私は違う町のホストファミリーに行くことが決まっており、ホストスクールも変わるようになっていた。突然の話に頭が真っ白になり、しばらくの間、心の整理がつかなかった。それ以降、学校では上の空となり、友人たちにこのことを伝えることに躊躇したが、正直に話すことにした。新しいホストファミリーの所へ移る日となり、荷物の最終確認をしていると、ホストマザーから驚きの話があるとされた。それは数日前に、私の友人がホストを申し出てくれ、手続きが済んだので、今日から友人の家に行くことが決まったのだと言う。その時私は、その友人が私の力になりたいと行動に移してくれたことに深く感謝した。フランスに来る前は、留学により主に語学や文化の違いを学ぶことができると考えていたが、それは周辺的なことで、私が最も学んだことは、国籍、人種、文化、宗教などが違っていても人と人は共感し合える、普遍的な価値を共有することができるということである。このような経験を世界中の人々が得ることができたのならば、差別や偏見、引いては戦争をなくすことができるのではないだろうか。

二つは、フランスは社会や学校教育が「自由」や「余暇」を重んじ、人生を心から楽しむことができる社会経済システムである一方、日本はなぜそれがなかなか実現できないのかという問題意識である。日本の高校は、大学入試のため暗記中心、勉強漬けであり、進路指導も偏差値に基づいて行われるのが一般的である。世界的に見ても、日本の10代は自己肯定感が低く、自殺率も高い。また、大人の世界でも働き方改革と言われて久しいが、少しずつ前進しつつも、多様な生き方や働き方を実現できる社会とはなっていない。宮沢賢治は、「世界ぜんたいが幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残したが、まず個人の幸福が実現して、その結果社会全体の幸福が実現するのではないだろうか。その個人の幸福の条件として、人々が「自由」を持つ権利を意識し行動することではないかと、フランス社会を通して考えるようになった。まだ漠然とした問題意識であるが、今後様々な学びを通してこの問題点を深めていきたいと思う。

どんなリスクであっても挑戦する勇敢な人を、英語ではRisk Takerと言う。自分の快適な場所から抜け出し、リスクを取ることで人は大きく成長すると、小さい頃から両親に教えられてきた。人は人生において必ず乗り越えなければならない壁に当たり、その壁を壊して前に進み、成長する。快適な場所から抜け出し、リスクを取った留学を終えた今、私は一つの大きな山を乗り越え、その山の頂上でしか見れない景色を見ることができた。このかけがえのない経験を一生の宝とし、これからもリスクを恐れず、様々なことにチャレンジしてゆきたい。

ホストシスターと



友達とプロムで



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		一年留学プログラム		訪問国		カナダ	
校内発表会の有無		☒ 有・無	(有の場合)	日にち	7月12日	(対象)	☒ 全校・学年
学校名	静岡英和女学院高等学校		氏名	清水ほのか		学年	3年

1 目的・応募理由

- ① 英語の上達
- ② コミュニケーション能力の向上
- ③ 視野を広げる
- ④ 異文化交流
- ⑤ 自立
- ⑥ 将来の夢に向けての勉強

2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

前期3教科、後期3教科、年間を通して学ぶ授業が2教科、計8教科の授業を受けました。

（1コマ60～70分）私は前期の授業で英語・宗教学・数学、後期は美術・英語・フード、年間を通して行う授業には英語とイヤーブック（その年のアルバムを作成）を履修しました。午前午後各2コマずつと午前中にはフォーカスブックという自分の苦手とする教科を集中的に勉強する時間があり、課題等で分からないことがあればその時間に友人や先生に教わり、予習復習・テスト勉強に時間をあてることが出来るのでとても良い時間でした。

ホストファミリーとは、休日にホストブラザーのサッカーを見に行ったりホストマザーとパンやお菓子を作ったりして過ごしていました。ホストファミリーはアフガニスタン系でアフガニスタン料理をよくふるまってくれました。宗教についても教えてもらう機会があり、興味深かったです。滞在中とても親切にいただき、家族の一員として受け入れてもらえて感謝しかありません。



6月の中旬以降は留学も終わりに近づいてきたということで、色々な友人と会いに行くことが多かったです。今までのように気軽に会えることがなくなるので多くの友人が私と

過ごす残り少ない時間のために予定を計画してくれて嬉しかったです。次にいつカナダに行くことができるかわかりませんが、これからも連絡を取り続け、いつかまた友人たちのもとへ会いに行くことを約束しました。友人たちも日本へ会いに行くので案内をしてねと言ってきて、とても嬉しかったです。

留学をして、かけがえのない友人を得、貴重な経験をさせてもらいました。

3 感想等

留学当初は英語力向上が主な留学の目的でしたが、カナダで生活していく中で語学力の向上以上に多くのものを得られたと思っています。

コミュニケーション力やチャレンジ精神、異文化について多くの学びがありました。大切な友人も増えました。

また、カナダに来てから自己肯定感が強くなったと感じています。元々はそこまで自己肯定感も高くなくメンタルも強くなかった私ですが、カナダに来て周りからの見られ方や自身の考え方が変わりました。

私がどんな発言や行動をしても誰も気にしない上に笑ったりもされません。自分の好きなことを貫き、人の目を気にしないカナダ人のスタイルがとても気に入りました。

以前は人目を気にしていたところがありましたが、今では気にすることなく生き生きと過ごせていると思います。

支えてくださったすべての方々に感謝します。そしてこれからの人生にこの経験をいかすことができるように努力していきたいです。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		高校生交換留学		訪問国		カナダ	
校内発表会の有無		有・無	(有の場合)	日にち	9月18日	(対象)	全校・学年
学校名	静岡県立静岡高等学校		氏名	梅村 舞子		学年	2

1 目的・応募理由

私は、かねてより海外の高校生が学ぶ教育システムや授業カリキュラムにとっても興味を持っていました。また海外での学校生活や日常生活を通して、語学力の習得だけではなく、日本と異なる習慣や文化を自ら体験し、将来日本と海外の架け橋となり社会貢献したいと思っていました。そこで、現地の高校で現地の高校生と共に学校生活を送ることができる交換留学を決断し、交換留学試験の合格を経て、10ヶ月間カナダの現地校で学ぶ機会を得ました。

2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

2023年9月から2024年6月までの10ヶ月間、カナダの公立高校に交換留学をしました。私が通った高校は、中学3年生から高校3年生にあたる学年の生徒約1000人が在籍している高校です。大規模校ということもあり先生の人数も多く、広大な敷地を持つ学校にはシアターや温水プールなども完備され、公立高校でありながら恵まれた学習環境で過ごすことができました。授業は1日に60分×5コマで、午前3コマ午後2コマあり、お昼休みが1時間でした。カナダの高校では、学期の初めに自分でどの授業をどの時間に受けるかを選択し、その時間割に基づいて毎日同じスケジュールで授業を受けます。日本の高校のようにクラスルームは無く、毎時間、自分が受ける授業の教室に自分が行くというスタイルです。主要教科だけでなく、専門的な内容も学べる幅広い分野の授業が用意されていたので自分の興味関心も深まりました。

授業外では、Youth in Action というクラブに入り、ボランティア活動や社会問題解決に向けた活動を行いました。多くのコミュニティに参加することで、校内外での新たな出会いや発見の機会が増え、創造的な考え方を身につけることにつながったと思います。



高校の体育館で行われた集会の様子



雪に覆われた高校の中庭

また、休日は現地の同級生とショッピングをしたり映画を見たりして過ごしました。その他ホストファミリーとカナダ各地の風光明媚な所にも行きました。国土面積が広いカナダは、それぞれの地域に特有の文化が根付き、各地に魅力的な名所があるため、同じ国でありながら違う国にいるような感覚になりました。

カナダは冬が長くとても寒いため（私の過ごした町は -20°C 前後でした）、ウィンタースポーツが盛んです。中でもアイスホッケーは国民に愛されるスポーツとして有名です。私も留学期間中に何度かプロのアイスホッケーの試合を見に行きました。初めて見たアイスホッケーの試合は迫力満点でした。



ショッピングモールの様子



プロのアイスホッケーの試合

3 感想等

カナダでの10ヶ月間は、とても有意義でした。カナダの高校ではたくさんの友人に恵まれ、その友人たちと一緒に高校生活を送ることで確かな英会話力と英語でのコミュニケーション力が身につきました。また、授業を英語で受けることにより英語の4技能の力が飛躍的に向上したとともに、英語で物事を考える力が養われました。学校の休み時間にピアノで日本の曲を披露したり、書道を紹介したりする機会もあり、カナダの高校生が日本に興味を持つきっかけを作ることができたと思います。

長期留学は異文化、多国籍の環境の中に身を置いて生活するため、困難に直面することもありましたが、その分、かけがえのない経験もできたと思います。様々なバックグラウンドを持った人々との交流を通じて、互いを尊重し合い異文化共生を目指す重要性を改めて感じました。この経験を生かし、社会に貢献することができるようにこれからも努力をして様々なことにチャレンジしていきたいと思います。



Anne of Green Gables（赤毛のアン）の舞台になったプリンスエドワード島



旅行で訪れたカナダの首都オタワの国会議事堂周辺